

みんなではじめよう！地域の元気づくり

## 田川広域連携シンポジウム

6月23日、田川地域の活性化を目的に、福岡県と田川地域8市町村で構成された田川広域連携プロジェクト推進会議の主催による「田川広域連携シンポジウム」が田川市民会館で開催され、約150人が参加しました。

シンポジウムでは、北九州市立大学の内田晃准教授が「地域資源を活かした広域連携による地域づくり」と題して講演。直方・鞍手地域での取り組みなどを紹介し、地域内における住民と行政との連携の重要性を訴えました。

引き続き、推進会議の専門委員である福岡県立大学の永田瞬講師が、田川地域をひとつの博物館に見立て、地域内にある自然や名所などを活かした「田川まるごと博物館」や次代の地域リーダーを育成する「田川・人財力

育成」などの広域連携プロジェクトの事業概要を説明しました。

締めくくりのトークセッションでは、「田川のためにわたしにできること、みんなでできること」のテーマで、4人のパネリストがそれぞれ行っている活動について報告。これからのまちづくりについて「田川にあるたくさんの魅力を知って、田川が好きだという気持ちを育てていくことが、人材育成の手がかりになる」など活発な意見交換が行われました。

また、4月25日には、一般社団法人田川広域観光協会（佐渡文夫理事長）が設立されており、このプロジェクトとあわせ、今後、田川地域が一体となった取り組みの実施が期待されます。



▲「歴史などだけでなく、人材も重要な地域資源」と話す内田さん



▲取り組みを紹介しながら意見を交わすパネリストのみなさん

## シリーズ 田川市立病院だより



田川市立病院院長  
鴻江 俊治

### 病院の上手なかかり方

- 1) かかりつけ医を持ちましょう 日ごろから定期的に受診する、何かあればすぐ診てもらおう。自宅や職場の近くにかかりつけの先生がいれば安心です。すべての病気が早期発見が大切です。もし、ややこしい病気が見つければ、紹介状をもらって当院へお越しください。
  - 2) セカンドオピニオン 今、受けている治療でいいのか不安である。あるいは、手術を勧められたが決心がつかない。こんなときは他の医師にセカンドオピニオンを受けましょう。ただし、今かかっている先生に内緒で行かないこと。申し訳ないと思わず、遠慮なく今の先生にお願いし、資料（データ）をもらって他の医師に相談しましょう。黙って行けば、再検査の時間、心身の苦勞、お金ももったいないです。セカンドオピニオンの説明で納得し、元の先生に戻ることで、先生との信頼関係が改めて深くなります。
  - 3) お薬手帳を持って受診しましょう 特に複数の病院から薬をもらっている人はいつも持ち歩きましょう。薬の重複、飲み併せや副作用などが避けられ、安全です。
  - 4) メモ 医師に言いたいこと、尋ねたいことはメモを作りましょう。また、聞いたことは、すぐメモしましょう。メモしていないと、尋ねそこなったり、聞いたことを正確に思い出せなかったりします。
  - 5) コンビニ受診はやめましょう 夜間・休日は救急患者さん専用です。待たされないからという理由で受診しないでください。いわゆるコンビニ受診は、当直医を疲弊させます。そして緊急処置に注がれるエネルギーが足りなくなれば、救急患者さんが不幸です。
- 昔から「若い医師は患者さんに育てられる」といいます。上手なかかり方をして、医師といいお付き合いをしてください。

● かわいい情報はHPで検索

田川市立病院

検索

クリック